

## NGO-労働組合同国際協働フォーラム 2024/2025年度活動報告 (2024年9月1日～2025年8月31日)

「持続可能な開発目標:Sustainable Development Goals(SDGs)」の実現に向け、NGOと労働組合が協働して社会課題の解決に取り組む場である「NGO-労働組合同国際協働フォーラム」の一年間の活動を報告する。

本年度は、「児童労働グループ【ゴール4,8】」は活動を継続し、新方針・体制に基づき、「HIV/AIDS等感染症グループ【ゴール3,8,10】」と「母子保健グループ【ゴール3,5】」は発展的に統合し、新しく「保健グループ【ゴール3】」を設置した。また、全体/横断的プロジェクトの推進を主な目的としたコアチームでは、シンポジウムを行った。

### I. フォーラム全体の活動

#### 1. 活動体制

##### 1) 連絡調整会議

機能: 暫定版活動計画・予算の協議と承認、フォーラム活動に関する情報交換、報告

参加者: (必須) グループ代表 (原則NGO, 労組各1名)、(任意) 希望するメンバー

開催実績:

- 第1回2024年9月25日  
主な議題: 課題別グループ活動報告/報告/活動計画・予算、活動報告・決算の準備状況の報告/規約改正案および年間会議スケジュール/業務委託料変更/総会連絡
- 第2回2025年1月20日  
主な議題: 課題別グループ活動報告/収支報告書および予算書の書式変更/繰越金方針および収支改善策/NGO労組フォーラムとしてのメーデー参加
- 第3回2025年5月14日  
主な議題: 課題別グループ活動報告/保健グループキャンペーンへのご協力をお願い/シンポジウム開催/収支改善策/翌年度コアチームメンバー公募/8, 11月総会日程/決算・監査スケジュール

本年度は、下記のとおり臨時会議も実施した。

- 2025年8月18日  
主な議題: Youtube動画の保管/シンポジウムの進捗報告、予算

##### 2) 総会

機能: 活動計画、予算、活動報告・決算の承認。フォーラム活動に関する全般的な意見交換

参加者: 全メンバー

開催実績:

- 2024年11月1日  
主な議題: 本年度活動計画・予算の承認/前年度事業報告・決算の報告/フォーラム規約改正の承認
- 2025年8月18日  
主な議題: 来年度会計監査委員の承認

##### 3-1) 活動種別: グループ活動

次の2つの課題別グループで活動した。

- ・ 児童労働グループ【ゴール4,8】

- ・ 保健グループ【ゴール3】(今年度より、始動)

### 3-2)活動種別:広報タスクチーム

評価・振り返りを行い、第3回連絡調整会議にて、来年度より解消が決定した。

### 3-3)活動種別:コアチーム

本フォーラムの趣旨・目的に従い、全体的・横断的企画の活動を行う。同チームは、労働組合およびNGOから各2団体、および協働事務局で構成される。11月には、20周年記念シンポジウム:労働組合とNGOの連携により取り組む「ビジネスと人権」を開催した。

### 4)会員・会費

会員:NGO12団体、労組13団体

会費:計25団体から納付があった。

### 5)会計監査

担当メンバー:

労働組合) 日本教職員組合

NGO) グローバル連帯税フォーラム

会合実績:

2025年10月 21日 会計監査の実施(2024-25期決算案について)

## 2. 共通活動

### 1)広報活動

協働事務局は、本フォーラム概要や各グループ活動情報を発信するため、フォーラムメンバーリストの管理・発信を行った。YouTubeチャンネル、Facebookは、第3回連絡調整会議にて、来年度より廃止が決定した。YouTubeチャンネル内の動画はGoogleドライブ上にアーカイブとして、保管した。

### 2)キャンペーン支援

制度概要:

組合員と一般市民が共に参加できるメンバーが関わっているキャンペーンを本フォーラムが積極的に支援することで、SDGsの達成に寄与する。支援是非は連絡調整会議が決定し、次の機能は協働事務局が担当する。

- 1 キャンペーン支援制度の告知。
- 2 支援するキャンペーンについての書類審査、連絡調整会議への提案。(申請団体と共に)
- 3 承認キャンペーンのフォーラムメンバーへの周知。

実績一覧:

2025年4月～8月に保健グループは、以下のキャンペーンを実施した。

「2030年までにエイズを終わらせる」ために、グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金)に日本の貢献を!

## 3. 事務局体制

### 1)協働事務局業務

労働組合側事務局:日本労働組合総連合会(連合)

NGO側事務局:(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

・NGO側事務局のJANICの体制は2025年3月まで水澤、中山、2025年4月より水澤、渡邊の2名体制となった。

・短期、長期の収支改善策を検討、提案を行った。

・コアチーム事務局業務を担当した。

## 2) 課題別グループ事務局業務

- ・児童労働グループ:(特活)ACE
  - ・保健グループ: アフリカ日本協議会
- 業務委託料が見直された。

## II. タスクチーム活動

- ・広報タスクチーム

評価・振り返りを行い、第3回連絡調整会議にて、来年度より解消が決定した。

## III. コアチーム

### 1) 目的

本フォーラムの趣旨・目的に従い、全体的・横断的企画の活動を行う。その他本フォーラムの目的を達成するために必要な諸活動を行う。

### 2) メンバー団体

#### <労働組合>

- ・国際食品労連日本加盟労組連絡協議会
- ・UAゼンセン

#### <NGO>

- ・(特活)エファジヤパン
- ・(特活)シェア＝国際保健協力市民の会

#### <協働事務局>

- ・日本労働組合総連合会(連合)
- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

### 3) 活動実績

#### NGO労働組合国際協働フォーラム 20周年記念シンポジウム 労働組合とNGOの連携により取り組む「ビジネスと人権」のご案内

(1) 日程:2024年11月1日(金)15:00～17:00

(2) 会場:連合会館 (3階AB会議室) \*対面開催

(3) 定員:60名

(4) 対象:労働組合関連者、NGO関係者など

(5) 主催:NGO労働組合国際協働フォーラム

### (6) プログラム

- 課題提起:労働組合とNGOと一緒にビジネスと人権に取り組む必然性

講師:(労組) 連合国際政策局 星野裕一

(NGO) ACE 代表 岩附由香

- パネルディスカッション:ビジネスと人権のサブテーマである「外国人人材」と「児童労働」について、NGOと労働組合の双方から、双方の視点と取り組み事例を紹介。

■ 外国人人材:NGO:シェア＝国際保健協力市民の会／労働組合:UAゼンセン

■ 児童労働:NGO:ACE／労働組合:IUF-JCC

### <懇親会の開催概要>

(1) 日程:2024年11月1日(金)17:00～18:00 (シンポジウムの後に同じ会場で開催)

(2) 目的:NGOと労働組合の名刺交換の場とする

(3) 飲食:フェアトレードコーヒーとお菓子を提供予定

(4) 会場:シンポジウム会場

(5) 参加費:無料

### (3)会議開催

・2024/9/3

シンポジウム企画、会計処理一部外注化、名簿公開、来年度活動計画

・2024/10/4

シンポジウム進捗確認、コアチームの任期、謝礼、コアチームの次年度計画と予算

・2025/4/2

シンポジウムの日程調整、シンポジウムのテーマ

・2025/5/14

シンポジウムのテーマ、今後のスケジュール、長期的収支計画案

・2025/6/23

シンポジウムの企画案、講師依頼、パネルディスカッションの内容、時間の延長

## IV. 課題別グループ活動

### 1. 児童労働グループ【ゴール4、8】

#### 1) 基本目標

世界には1億6000万人、世界の子どもの10人に一人が児童労働をしている現状がある(ILO、2021)。SDGsには、「2025年までにすべての形態の児童労働を終わらせる」ことが目標8のターゲット7に掲げられた。児童労働者の増加に歯止めをかけるため、当グループは労働組合とNGOの連携を通じ、また児童労働ネットワーク(CL-Net)とも協力しながら、児童労働の撤廃に向けた取り組みを促進することを基本目標とする。

※児童労働ネットワーク(CL-Net)とは

児童労働に問題意識をもち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指すNGO、労働組合などが加盟するネットワーク。

#### 2) 当年度(2024/2025年)の目標

グループ内の学び合いや意見交換を通じ、グループ活動をアップデートし、より効果的な啓発活動につなげていく。児童労働問題解決への具体的な変化に貢献することを意図し、児童労働ネットワーク(CL-Net)と連携し政策提言活動にも取り組んでいく。

#### 3) 参加組織

＜労働組合:6組織＞

- ・IUF-JCC
- ・自動車総連
- ・JAM
- ・情報労連
- ・日教組
- ・UAゼンセン

＜NGO:4組織＞

- ・アムネスティ・インターナショナル日本
- ・ACE <事務局>
- ・国際労働財団
- ・シャンティ国際ボランティア会

#### 4) 活動実績

##### (1) イベント開催、出展

1 第96回メーデー中央大会

日時: 2025年4月26日(土)

場所: 東京・代々木公園B地区

参加人数: 約100人

活動内容/実績: 昨年に引き続きブース出展し、児童労働にNO! の意思を示すレッドカードを掲げて写真を撮影する「レッドカードアクション」への参加を呼びかけた。100名以上がアクションに参加し、46枚の写真を撮影した。参加者には、写真撮影前に児童労働の現状に関する簡単なクイズを出題し、児童労働の現状への関心を喚起するとともに、児童労働撤廃に取り組むカカオ原

料が使われたチョコレート「ブラックサンダー」を配布し、私たちと児童労働のつながりと具体的な変化が既に起きていることを伝えた。

## 2 JAM第27回定期大会

日時: 2025/08/28

場所: 岐阜・岐阜グランドホテル

参加人数: 約650名

活動内容/実績: 2日間にわたり対面で開催されたJAM定期大会の1日目の終わりに登壇し、児童労働の現状を伝えた。参加者には、児童労働グループで作成した啓発リーフレットを配布し、児童労働をなくそうという意思を持ち一歩を踏み出すことを呼びかけた。

なお、2025年6月に児童労働の最新推計の発表があり、児童労働者数などの情報が更新になったことから、リーフレットの内容を一部改訂・増刷し、配布に備えた。

### (2) グループ会議、勉強会等

#### <グループ会議>

10月10日、10月16日、4月8日、7月31日

#### <勉強会>

なし

### (1) 成果と課題

#### <成果>

・メーデー出展時の「レッドカードアクション」において、昨年課題としてあがっていた「写真を撮って終わり」になっている状況を改善するべく、クイズを通じてインプットを行う施策を実施することができた。短い滞在時間内でも、単なるアクション参加に留まらない啓発活動が可能なことを確認できた。

#### <課題>

・CL-Netとの連携を通じ政策提言活動にも取り組んでいくことを年度目標としていたが、十分に連携が取れず、具体的な活動を行うことができなかった。  
・全体的に活動量が少ない年度となってしまった。年間の会議開催日をあらかじめ決めておくなど、メンバーが参加しやすいよう工夫していく。

### (2) その他

・課題別グループのあり方検討に加え、CL-Netとの連携・融合についても、児童労働グループとCL-Net両方の事務局を務めるACEより問題提起があり、これまでよりも一歩踏み込んだ議論が開始した。2025-2026年度内に結論を出し、具体的なステップに進むことができるよう、関係者と意見交換を重ね、検討を深めていく。

## 2. 保健グループ【ゴール3】

### 1) 基本目標

- 「あらゆる年齢の全ての人々の健康な生活を保障し、福祉を促進する」と定める、SDGsゴール3には、9つのターゲットと4つの実施手段が含まれているが、このうち、ターゲット 3.3は、「2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった感染症を終息させるとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する」と定めている。また、全ての人が経済的困難に直面することなく必要とする保健医療サービスを受けられることをめざすターゲット 3.8「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成」も世界の目標として重視されている。これを踏まえ、SDGs が目指す「誰一人取り残さない」社会を実現するために、当グループは SDGs 目標3全般について取り組むとともに、「HIV感染症グループ」を引き継ぎ、引き続きHIV/エイズなど感染症に関する課題についても取り組む。
- NGOと労働組合が協力し、労働組合員や一般の人々に対して、各種の国際保健課題の啓発等を進めるとともに、HIV感染症グループを引き継いで、国内外の HIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、そのための国際的な取り組みを行う。労働組合・NGO 双方のネットワークを通じて、これらの活動への支援参画

を促す。

## 2) 当年度(2024-25年)の目標

- 「母子保健グループ」が昨年度をもって解散することとなり、同グループの参加団体は「エイズ・感染症グループ」に合流し、また、「エイズ・感染症グループ」としても活動を見直し、より幅広い「保健グループ」に発展する形となった。これに伴い、「保健グループ」として、どのような活動をしていくのかについて、旧「母子保健グループ」の活動から何を継承し、「保健グループ」としてどのような活動をするかについて、新しく参加される団体からの希望を伺いつつ検討する。下半期には、国際保健全般に関して、何らかの新しい活動を始められることが望ましい。
- 新型コロナウイルス感染症や HIV/エイズ、その他感染症と保健・健康に関する課題について、一般の人々・労働者への啓発に貢献し、保健の課題に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- グループ参加団体が HIV/エイズ等感染症や母子保健を含め、保健の問題に関する知見や情報を共有し、それぞれの活動に生かし、また広く啓発活動を行えるように、グループとしての重点課題をまとめる。

## 3) 参加組織

＜労働組合：6組織＞

- ・ インダストリアル日本化学エネルギー労働組合協議会（インダストリアル・JAF）
- ・ 国際食品労連日本加盟労組連絡協議会（IUF-JCC）
- ・ 全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会（電機連合）
- ・ 日本基幹産業労働組合連合会（基幹労連）
- ・ 国公関連労働組合連合会（国公連合）
- ・ 全日本自治団体労働組合（自治労）

＜NGO：3組織＞

- ・ シェア＝国際保健協力市民の会
- ・ グローバル連帯税フォーラム
- ・ アフリカ日本協議会＜事務局＞

## 4) 活動実績

### (1) イベント開催、出展：主催

#### ①共催イベント：シェア＝国際保健協力市民の会 セミナー

日時：2024年10月25日（金）19:00～20:30

場所：オンライン

参加人数：約50名

活動内容：「＜途上国の「健康」は誰が担う？＞ NGOとビジネスの狭間で考える。デジタルヘルスで挑む、医療アクセスと健康格差。」というタイトルのオンラインセミナーを当グループとの共催で実施。国際保健の分野で活動するNGOのASHAの任 喜史 氏をスピーカーとしてお招きし、テクノロジーの力でのコミュニティでの取り組みについてお話を伺いながら、デジタルヘルスを通じた健康格差の課題解決について学ぶ機会の提供が出来た。

## ②「ホットジェネレーション」ミュージカルでの啓発活動

日時:2025年1月24日(金)準備16時～ 開場18時 開始18時30分、終了20時

場所:藤沢市民会館(神奈川県)大ホール

参加人数:グループ 4名 (イベント参加者 800名)

活動内容/実績:シェアが協力する恒例の「ホットジェネレーション」ミュージカルでのエイズ啓発活動。今年は、神奈川県福祉団体「光友会」が主催で、藤沢市民会館大ホールで、より大規模に実施。当グループとしては、例年通り、エイズ啓発のメッセージの入ったティッシュと、東ティモールやエチオピアの情報や保健の状況に関してまとめたチラシ、および当グループの活動に関する案内チラシ等を観客に配布した。さらに会場にブースを出展するなどした。

## ③ 国公連合中央委員会でのコーヒー試飲会

日時:2025年1月30日(木) 14時～16時

場所:連合会館

参加人数:グループ 5名程度 試飲会会場に立ち寄った人数 60名程度

活動内容:国公連合の中央委員会(連合会館にて開催)の休憩時間中に、会場の一部屋を借りて、中央委員会参加者に対して、シェアの東ティモール・コーヒーを参加者に振舞い、活動の啓発チラシや、グループの案内チラシ等を配布するなどの企画を行った。コーヒーは大変評判が良かった。また、コーヒーの試飲に来られた組合の方々と、あらたな連携・協力関係につながった。

## ④ メーデー会場でのブース出展

日時:2025年4月26日(土)午前10時～午後1時

場所:代々木公園 メーデー会場

参加人数:10人(スタッフ数)、ブースに立ち寄った人数(200人)

活動内容/実績:保健に関するクイズを作成し、答えてくれた人には簡単な解説で情報提供をしつつ、景品として東ティモールコーヒードリップパックもしくはビスコを渡した。ブースに立ち寄って話を聞いた人は200名弱に上った。HIV/AIDSを始め、様々な保健問題について、メーデー参加者の方々と意見交換をする、よい啓発の機会となった。

日時:2025年4月26日(土)午前10時～午後1時

場所:横浜 臨港パーク メーデー会場

参加人数:5人(スタッフ数)、ブースに立ち寄った人数(200人)

活動内容:ブースにてNGO労組保健グループのチラシを配置し、東ティモールコーヒーの試飲と販売を通して関心を持ってもらうことが出来、保健課題について伝えることが出来た。

## (2)キャンペーンの実施(世界エイズ・結核・マラリア対策基金第8次増資に日本の貢献を)

期間:2025年4月26日～

趣旨:途上国のエイズ・結核・マラリア対策や保健医療制度・サービスの強化に資金を提供する国際機関「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」(グローバルファンド)が行っている「第8次増資」について、日本政府の貢献を呼びかける署名キャンペーンを、フォーラムの後援を得て、4月26日の連合メーデーの日に開始し、当フォーラムに参加する多くの労働組合やNGOの支援を得て、8月31日現在で約5800筆の署名を収集した。同基金の第8次増資は、2027-29年の三大感染症対策に向けて各国政府や民間財団、民間企業、資産家等に拠出

を働きかけるもので、期間は2025年2月～11月、目標金額は180億ドルとなっている。

活動内容／実績:オンライン署名(change.org)を中心しつつ、Googleでも署名フォームをセットし、また、紙の署名も並行して行った。5000筆以上の署名を得ることができた。日本政府は増資期間が終了する11月に向けて、日本としての資金誓約を行う予定であるため、これに向けて9月中旬～下旬に外務省・厚生労働省への提出を検討している。

## 5) 成果と課題

### <成果>

本年度は、昨年の「母子保健グループ」の解散と、同グループに所属していた4つの産別組織の加入により、「HIV等感染症グループ」から「保健グループ」へと衣替えした。これにより、これまでの「HIV等感染症グループ」としての活動を継続しつつ、母子保健グループが行ってきた活動も受け継ぎ、「保健グループ」としての活動を軌道に乗せることが重要な目標とされた。これについて、本年度の活動は、ミュージカルの公演と連携しての啓発活動や、メーデーでの啓発活動など、これまでの活動に加え、新たに参加した産別組織の会合でのコーヒー試飲会など、あらたな取り組みを行うことができた。また、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)の第8次増資に日本の貢献を求めるキャンペーンについても、グループに参加する労働組合やNGOのみならず、より多くの労働組合やNGOの協力を得て進め、現在までに6000筆近い署名を集めることに成功している。

### <課題>

旧来の「HIV等感染症グループ」としての活動に加え、母子保健グループの活動を引き継ぎ、あらたに「保健グループ」としての活動を作り出していくことが目標となり、毎回の会合でも、活動の在り方などについて討議を行ったが、「保健グループ」としての新たな活動の実践を大きく作り出すには至っていない。また、署名運動、グループ活動、会議のいずれについても、新たに参加した各団体の積極的な参加を実現するまでには至っていない。

以上